

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

情報を入手しよう、選択しよう、アウトプットしようなど、いろいろと書いてきましたが、そもそもなぜ、情報を扱う必要があるのでしょうか。ちよつと哲学的になりませんが、一緒に考えてみましょう。

同じような疑問に、「なぜ人はものを食べるのか」というものがあります。そうしないと栄養素が得られず、肉体的に成長できないし生命も維持できないから、というのが最も短絡的な答えでしょう。

では、十分に栄養バランスのとれたサプリだけで生きていけるかというと、生きていけるかもしれませんが、私はイヤです。美味しいものを楽しく食べたいです。安くて美味しいものも、それなりの値段の美味しいものも食べたい。人間にとって食事とは、

X

はずです。

食べたものは大半が体から排出されます。そして、ごく一部が血肉になります。情報も同じです。出ていくまでもなく蒸発するように記憶から消え去ってしまうのです。しかし、一部が血肉になるのは同じです。いい情報を絶えず取り入れ、そして排出(忘れたり、捨てたり、アウ

トプットしたりすること)を繰り返すことは、いい筋肉やいい血液を作ると同じように、情報アンテナを磨いたり、審美眼を鍛えるために欠かせないことなのです。

それに、血肉にならなくても、記憶は残ります。

忘れたつもりでも、何かのきっかけで、あれを食べた、どこで誰と食べたと記憶はよみがえります。その食事の記憶は、まるで教養のようです。身につけるつもりもなく摂取してきたものは、年月を経るうちにいつのまにか、豊かな人生を送るのに欠かせない教養と呼ばれるものに変貌を遂げています。

情報を入手し続けることの目的は、得た情報を活用することよりも、

I

、情報に負けてしまわない基礎体力を作ること、そして、いつか思い出せる教養という名の思い出を蓄積していくことだと言っていいいでしょう。

B 私は本を読むと、すぐにその内容を忘れてしまいます。

たいていの場合、読んでいる途中で、前のほうに書いてあったことを忘れます。それでは書評が書けないので、付箋を貼りながら読んでいます。付箋を貼るのは、忘れることを前提とした作業なのです。

面白かった本を本棚ほんだなに入れておくのも、忘却ぼうきやくを織り込おこみでの行為です。そこに私の脳の外部記憶装置ぞうちとして本棚があり、本があるから、安心して忘れられると言えます。

忘れたはずのことも、些細ささいなきっかけで思い出すことがあります。「前に読んだ本に書いてあった」ことだけ思い出せば、十分です。あとは、本棚の前に立ってその本を探し出せば、そこには以前読んだときと同じ情報が書かれています。

つまり、忘れたつもりでいても、捨てたつもりでいても、実際には忘れていないのです。

私は、情報との距離感きょりはこの程度でいいと思っています。もちろん、自宅の場所や銀行の暗証番号といったデータはすぐに頭の中から引き出せないと困りますし、何かの資格試験に臨のぞむ際には無理矢理の暗記も必要でしょう。

Ⅱ、そういった例外を除いた、たいていの場合は、どのあたりに情報があるかわかっていて、さらに、どうやったらそこにアクセスできるかがわかっていれば、十分です。裏を返せば、そのために付箋を貼り、本棚はジャンル別に整理しておく必要があるのです。

Ⅲ、読んだことを何もかも覚えていようとした

ら読書は苦痛になるでしょう。読んだ内容は忘れていいと知ることが、本を多く読むコツと言えます。

書店へ行くと教養について書かれた本を多く目にします。まさに世は教養ブーム。この教養とは実は、捨てたつもりで捨てていない情報のことだ、と私は考えています。

捨てたつもりゆえに、はつきりと覚えていないので、仕事に使う情報のようには役に立ちません。しかし、何かのきっかけで思い出したとき、教養Pは最強の情報になります。

教養は、「教養を身につけるための本」を読めば身につくものではありません。教養は Y のある薬のようなものではないのです。教養は、時間をかけていろいろな食べ物を摂取せつしゅしてきたことで、体に備わった血肉のようなものです。おいそれとは構築こうちくできないし、だからこそ、捨てたつもりでも捨てきれません。

忘れたつもりでも、子どもの頃に何度も聞いていた歌などは、少し耳にただけで、かなりの部分を思い出せるのは、その歌が聞く人にとって教養になっているからです。

そしてこの教養は、思わぬ時によみがえってくるだけで

なく、思わぬ時に力を発揮します。

それは、仕事の場面で、です。仕事に必要な情報は、みな、必死になって収集します。だから、同じ仕事をしている人たちの間で、得られる情報の量に大差がつくことはありません。しかし、その人に教養があるかないかで、得た情報の活用範囲はまったく異なります。

教養があれば、得た情報が、自分の持っている教養の何に「似ているか」がわかります。何と「相性がいいか」がわかります。何と「組み合わせたら面白いか」がわかります。

この「何と」を多く持つていれば持つているほど、その人はアイデアを多く生み出せるわけです。一方で、教養のない人は何も生み出せません。また、周りと同じ程度の教養しか持つていない人は、はっと周りを驚かせるようなアイデアがひらめくことはありません。

問一 空欄

X

にあてはまる最もふさわしいことばを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 栄養素を取るためのだけの行為ではない
- イ 美味しいものを追求する行為ではない
- ウ サプリの物足りなさを補う行為である
- エ 会話を楽しみながら情報を得る行為である

ですから、これから新たな教養を身につけたければ、長く続けられるもの、自分の周りの人があまりやっていないものを始めることです。私が若いビジネスパーソンに歌舞伎見物をすすめるのはこれが理由です。歌舞伎そのものももちろん面白いのですが、それ以上に、得られるものが多いのです。

（成毛眞『情報の「捨て方」―知的生産、私の方法―』による）

【注】

*アウトプット——出力。ここでは情報を自分なりに表現すること。

*短絡的——ものごとを単純に結びつけること。

*審美眼——美しいものとみにくいものを見分ける能力。

*ビジネスパーソン——仕事仲間。

問二 — 線部 A「情報も同じです」とあるが、いい情報を取り入れ、排出することで得られるものはなにか。解答欄らんの形に合うように、本文中より抜き出しなさい。

問三 空欄 I } III にあてはまることばを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア もし イ しかし ウ むしろ

問四 — 線部 B「私は本を読むと、すぐにその内容を忘れてしまいます」とあるが、筆者は書評を書くために、具体的にどのような対策をしているか。二つあげなさい。

問五 — 線部 C「忘れたつもりでいても、捨てたつもりでいても、実際には忘れていないのです」とあるが、どうしてそのように言えるのか。説明しなさい。

問六 — 線部 D「教養は最強の情報になります」とあるが、なぜ「最強」と言えるのか。理由を説明しなさい。

問七 空欄 Y にあてはまる最もふさわしいことばを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 確実性 イ 偶発性ぐうはつ ウ 即効性 エ 中毒性